

## 監督・選手注意事項

### 1. 規則について

本大会は、2022 年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

### 2. 競技場について

主競技場の競走路及び助走路は全天候舗装である。スパイクのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投のピンの長さは12 mm以下とする。これらのスパイクピンの直径は、先端が4mm以内、スパイクピンの数は11 本以内とする。走路の保全と競技者の安全のために、WA 競技規則 TR5を厳守されたい。

競技用シューズの靴底についてはWA 競技規則 TR5(シューズ)を守る。ただしフィールド種目は除く。

### 3. 練習について

**駐車場での練習は全面禁止とする。**

**公園内など競技場外での練習は全面禁止とする。**

**競技開始前のトラック開放は9:00までとする。**

跳躍競技・投てき競技の本競技場での練習は、招集完了後、役員の指示に従って行うものとする。(棒高跳を除くフィールド競技は招集完了以前には、フィールド内に入ることはできない。混成競技のフィールド種目については、競技開始の30 分前から練習できる。)

### 4. 招集について

① 招集場所はスタート地点(フィールド競技は現地)の最終のみとする。プログラムの競技日程に記載の現地招集時刻に遅れた者は欠場とみなし出場を許さない。

② 混成競技の1日目及び2日目の最初の競技についても現地での最終コールのみとする。2種目以降の招集は競技開始時刻のトラック競技10分前、フィールド競技10分前に競技場で行う。

③ 混成選手控所は設けない。

④ 一つの種目に出場していて、他の出場種目と時刻が重なる場合は、当該種目の役員に申し出て了解を得る。これを怠った者は欠場とみなす。

### 5. アスリートビブスについて

① アスリートビブス・腰ナンバー標識は登録番号とし、顧問総会で配布した数字サンプルを使用して各自で作成して(男女とも黒字)アスリートビブスは2枚を胸と背につけること。ただし、跳躍競技参加の競技者は胸部または背部だけでもよい。

② セパレートレーンを使うトラック競技出場者は各自で作成した登録番号の腰ナンバー標識をランニングパンツ右側後方につける。

③ 3000m、5000m、3000mSC、及び5000mWについては、胸・背に特別ナンバーカード、腰部に腰ナンバー標識を使用する。(特別ナンバーカード・腰ナンバー標識は招集所で各自受け取る。競技後の回収はしない。)

④ 混成競技の最終種目においては、胸と背中に各自のアスリートビブス(背中につける順位を示すアスリートビブスは使用しない)、腰にレーン番号の標識を使用する。(腰ナンバー標識は招集所で各自受け取る。競技後の回収はしない。)

⑤ 800m、1500m、4×400mR の2～4走者は、招集所で腰ナンバー標識を各自受け取り右の腰につける。競技後の回収はしない。

### 6. トラック競技の組・レーン順、フィールド競技の試技順について

① トラック競技の組・レーン順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムで示す。

② トラック競技の準決勝・決勝の組・レーン順は本部で抽選し、記録掲示場所に掲示する。

### 7. リレー競技について

① オーダー用紙(プログラム内にある)は12時以降、1組目の競技開始80分前までに招集所に提出すること。

② リレー競技に出場するチームのユニフォームは、原則4名統一したものを着用すること。

### 8. 写真判定・電気計時について

トラック競技においては写真判定を採用する。

### 9. トラック競技の準決勝、決勝進出について

800m までの種目及びリレー競技において、同タイム者(チーム)については判定写真を細部(電気計時1/1000 秒)まで読み取り着差を判定する。それでも判定できない場合は、同タイム者又は代理人によって抽選する。

## 10. 競技方法について

- ① 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は最後の一人になり優勝者が決定するまで、以下の通りである。(荒天の場合は別に掲示する)

|       | 練習    | 1    | 2    | 3    | 4    | 5    | 6    | 7    | 8    | 以降   |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 男子走高跳 | 1m70～ | 1m75 | 1m80 | 1m85 | 1m90 | 1m95 | 1m98 | 2m01 | 2m03 | 2cm  |
| 男子混成  | 1m40～ | 1m45 | 1m48 | 1m51 | 1m54 | 1m57 | 1m60 | 1m63 | 1m66 | 3cm  |
| 女子走高跳 | 1m40～ | 1m45 | 1m50 | 1m55 | 1m59 | 1m63 | 1m66 | 1m69 | 1m72 | 2cm  |
| 女子混成  | 1m15～ | 1m20 | 1m23 | 1m26 | 1m29 | 1m32 | 1m35 | 1m38 | 1m41 | 3cm  |
| 男子棒高跳 | 3m50～ | 3m60 | 3m70 | 3m80 | 3m90 | 4m00 | 4m10 | 4m20 | 4m30 | 10cm |
| 女子棒高跳 | 2m30～ | 2m40 | 2m50 | 2m60 | 2m70 | 2m80 | 2m90 | 3m00 | 3m10 | 10cm |

- ② 1位及び関東大会出場を決定するためのバーの上げ・下げは走高跳では2cm、棒高跳では5cmとする。

- ③ 投てき種目の計測ラインは以下の通りである。(荒天の場合は別に掲示する)

|    | 砲丸投  | 円盤投   | ハンマー投 | やり投   |
|----|------|-------|-------|-------|
| 男子 | 9m50 | 24m50 | ***   | 39m50 |
| 女子 | 7m50 | 20m00 | ***   | 24m50 |

- ④ 男子走幅跳・女子走幅跳・男子三段跳はAピット(トラック側)、Bピット(スタンド側)で行い、トップ8も各ピットで行う。

※ 男子三段跳は12mピット、女子三段跳は9mピットを使用する。

- ⑤ 男子5000m、女子3000m、男子5000mW、女子5000mWのスタートは出場者数を確認して2グループに分けておこなう。

- ⑥ 競技運営上、男子5000mは18分、女子3000mは13分、男子5000mWは30分、女子5000mWは35分で最終周に入らなければ競技を中止する。但し、入賞者が確定していない場合はこの限りではない。

## 11. 用具について

投てき用具は、検査を受け承認された物に限り使用できる。ただし承認された投てき用具は、競技場の用具と同じ扱いとする。

(投てき用具は検査時間内に公式計測員の検査を受ける。検査時間については競技日程下段を参照のこと。)

なお、検査を受ける用具は日本陸連の検定品であること。

## 12. 入賞及び得点について

- ① 入賞は8位までとする。

- ② 得点は各種目1位8点、2位7点、……、8位1点とする。

- ③ 合計得点により、男女別学校順位を決定する。(同点の場合は上位種目の多い方を上位とする。)

## 13. 表彰について

- ① 各種目8位まで賞状を授与する。

- ② 各種目3位までに入賞した者は、競技終了後直ちに表彰を行うので、本部前に集合待機すること。なお、4位以降は表彰係まで賞状を取りに来ること。

- ③ 学校別表彰は、男女とも8位までとする。(表彰式は行わない)

## 14. 抗議・上訴について

WA 競技規則 TR8にもとづき、競技者自身、もしくは代理人から審判長への抗議を口頭でなされる。裁定に不服の場合は競技者に代わる責任者が 上訴申立書と預託金 10,000 円を総務に提出する。

(抗議は正式アナウンス後、上訴は審判長の裁定確認後 30 分以内。同一日に次のラウンドが行われる種目は 15 分以内とする。)

## 15. 欠場について

欠場者がいる学校は9:00までに欠場届を競技者係に提出すること。その後各種目にやむをえず欠場者が出た場合は、できるだけ早く競技者係に申し出ること。

## 16. 助力について

競技場内での助力は禁止とする。スタンドからの助言については競技運営ならびに他の競技者の競技に妨げにならない範囲で認めるものとする。文書をもって連絡することや、当該競技場所を勝手に離れることはできない。

また、ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことはできない(WA 競技規則 TR6)ので、あらかじめ学校関係者に預けておくこと。

## 17. その他

- ① 競技中の疾病・傷害などの応急処置は主催者側で行う。

- ② プログラムに誤記がある場合には、速やかに本部に申し出ること。

- ③ 参加各校の補助員(1名以上)は、競技開始1時間前に本部に集合のこと。

- ④ シート・テントを張る場所は競技場の注意事項を確認すること。

各校の横断幕、のぼり等も競技場の指定された場所以外には張らないこと。応援席にテーピング・ガムテープ等を貼らないこと。

- ⑤ 声を出しての応援は禁止とする。
- ⑥ 大会中は競技マナーを守ること。
- ⑦ **貴重品の管理に留意すること。(※競技場で盗難が頻発している。)**
- ⑧ 本大会決勝で各種目6位まで入賞した者(走高跳、棒高跳は6位までの入賞者6名)は、6月17日～20日に栃木県カンセキスタジアムとちぎで開催される関東高校対校陸上競技選手権大会兼全国高校対校陸上競技選手権(全国高校総体)南関東地区予選会に神奈川県代表選手として出場できる。  
但し、競歩、混成競技、女子三段跳、女子ハンマー投については4位まで、女子棒高跳は4位までの入賞者4名とする。  
該当選手は競技終了後直ちに本部庶務にて手続きをして書類を受領すること。
- ⑨ 南関東大会申込及び代表者会議は、5月25日(水)14:30～ 横浜平沼高校で行う。(申込は代表者会議を兼ねるため必ず顧問が出席のこと。また、申込に顧問が欠席の場合には、南関東大会への出場権を辞退したものと扱う。)
- ⑩ 本大会決勝でトラック種目(リレー種目を除く)・フィールド種目で上位8位までに入賞した者は、その種目に限り令和4年度(第64回)神奈川県高等学校新人陸上競技大会への地区予選通過の権利を得たものとする。ただし、地区予選の申し込みはするものとし、1種目1校3名以内、同一人3種目以内(リレーを除く)の出場制限は従来通りとする。本年度新人地区予選に本大会入賞種目を申し込まなかった場合、また申し込んで出場した場合は地区予選会通過の権利は失効したものとす。
- ⑪ 競技終了後は、速やかに競技場より退場すること。
- ⑫ 競技場外のミーティングもできるだけ速やかに行い密を避けること。(感染症対策のため)
- ⑬ ゴミは持ち帰りを原則とする。

#### 競技場入場について

- ・常任委員会での責任抽選の結果順で午前7時30分より入場する。7時00分より整列開始。
- ・各校2名以内で整列し入場を行うので競技役員の指示に従うこと。
- ・上記の2名が別々の場所をとることは禁止とする。  
※ 常識を逸脱した時間に生徒が集合しないように各校で責任を持つての指導をお願いします。  
※ 競技場の開門は4日間とも7時30分(予定)とする。

#### ☆ 安全対策について

- ・競技会に参加の選手、競技役員、補助員以外はトラック、フィールドに立ち入らない。
- ・本競技場、補助競技場では決められたレーンを守り常に安全確認を怠らない。
- ・周囲の安全を確認し、審判員・顧問の指示に従い事故防止を何よりも優先する。
- ・トラック、フィールドともに横断する際には周囲の安全確認を行う。
- ・ウォーミングアップの際、事故防止の為に、必要な声の掛け合いを行う。
- ・投てき物を持った状態での空ターンや助走練習は、公式練習以外では行わない。
- ・投てき物(やり等)の回収の際も周囲の安全に十分に配慮すること。
- ・チューブ、マーカー、メディシンボール等の器具を使用する練習は安全面から行わない。
- ・跳躍競技での「後追い助走」は危険防止のため禁止とする。

#### 不正スタートについて

- ・不正スタートは、1回で失格とする。混成競技については2回目以降に不正スタートの競技者が失格となる。
- ・スタート時の不適切行為に関しては、審判長によって警告(イエローカード)が与えられることがある。
- ・イエローカード(以後、YCと称す)に関して以下の様に運用する。  
(ア) WA競技規則TR16の規定により(a)(b)(c)いずれかの行為を行った時、YCを提示し警告を与える。この場合他種目との合算はなく、種目ごとに累積し、種目ごとにリセットする。  
(イ) 同一種目で2回のYCを受けた競技者は、当該種目を失格とする。但し、それ以後の他の種目の出場は可能である。YCの累積は、該当種目のみに適用する。

#### レーン侵害による失格について (WA競技規則TR17.4.3/17.4.4)

- (ア) レーンで行うすべてのレースの曲走路で、左側の白線や縁石に2回(2歩)以上触れた場合や1回(1歩)踏み越えた場合。
- (イ) オープンで行うすべてのレース(一部セパレートのレースも含む)の曲走路で縁石の内側に2回(2歩)以上踏んだり完全に入った場合  
※同一種目でラウンドをまたいだり、リレー種目の別の走者による2回目も含む。  
※1回目のリザルトの当該選手の横にLマークを表示する。